

住吉名勝圖會 二

ル 4  
4795  
2



4795  
2



住吉名勝圖會卷之二目錄

年中行事畧記

白馬節會之圖

鬪雞之圖

大乘會舞樂之圖

競馬之圖

田樂之圖

荒和御祓之圖

踏歌節會之圖

御結鎮神事之圖

汐干之圖

卯之日祭圖

御田植女之圖

社僧優戲之圖

盂蘭盆會之圖

相撲會之圖  
新嘗會之圖

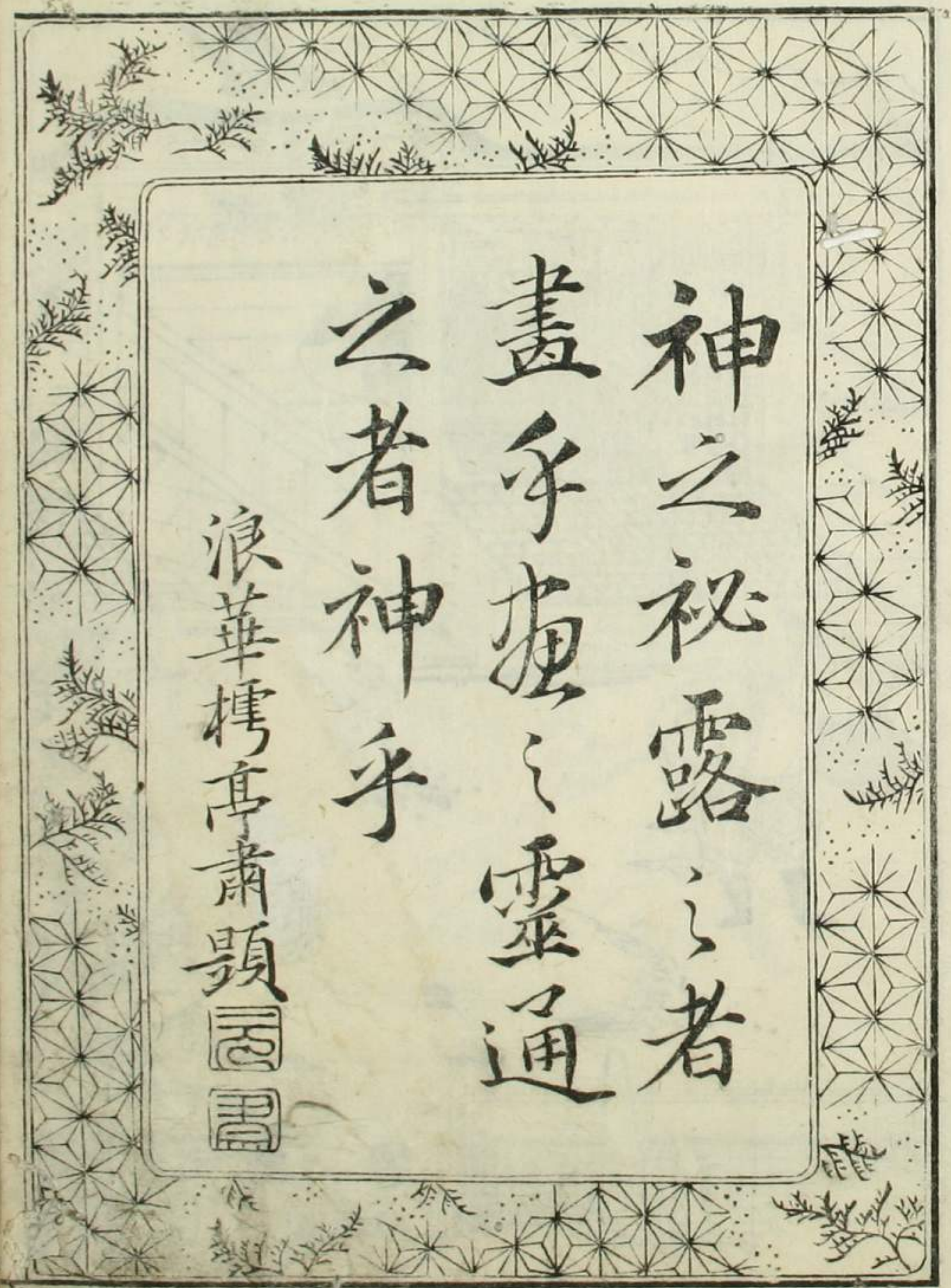
以上

北祭神事之圖

二目ノ一

神之祕露之者  
盡乎極之靈通  
之者神乎

浪華携高肅題



正月四日夜  
踏歌



住吉年中行事

正月

○朔日

辰之半尅奉神供

總官權官氏人等晦日の夜より

神明白散神酒御鏡餅櫃の御供と奉る此時御前より

總官杓を以て水と鹽と盛と十二箇度より奉りて幣殿

各再拜して去りて出に次入御所の御供と奉りて

權宜祝詞と奉りて酒官已下今夕戌之尅神宮寺

修正會自今日至七日 總官權官神宮寺の時

○二日 早且兩官出仕奉幣拜大神

午中尅吉書始神館殿

二ノ二

○三日

同前

○四日

同前今夜戌尅踏歌

兩官

一之神殿より幣殿に着座に樂人拍子筈篳篥笛大拍

子等と持北の中門の前より立雙調と吹き此殿を

下舞終て釋文式と持持と御前より餅と幣と

童練男御前より出舞田中井戸より終て去りて

○五日

兩官出仕拜大神

○六日 同前

○七日

辰之尅神供備進

神官總官權官幣殿に着座に

己之尅白馬神事

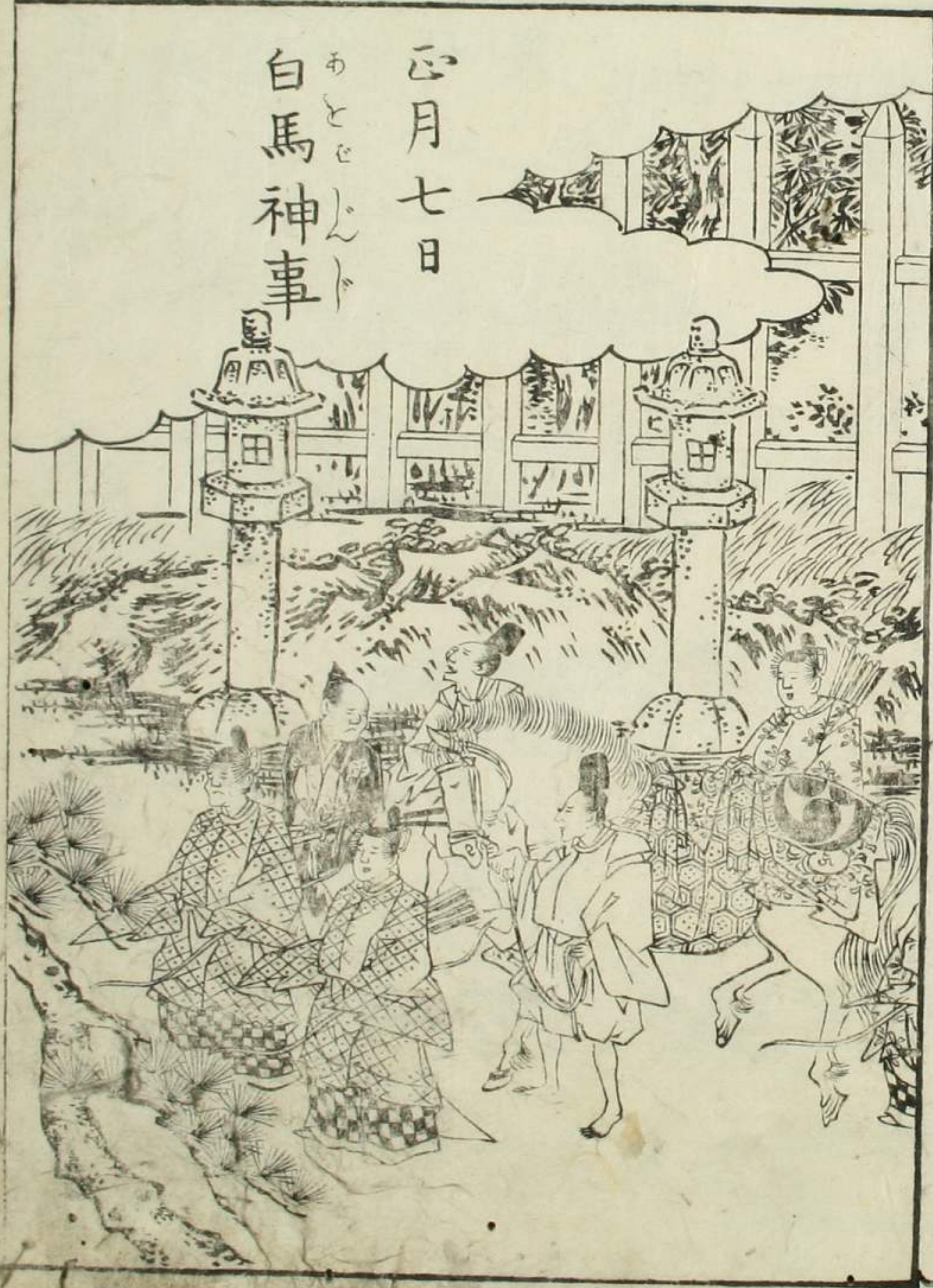
兩官氏人樂所神官已下出仕

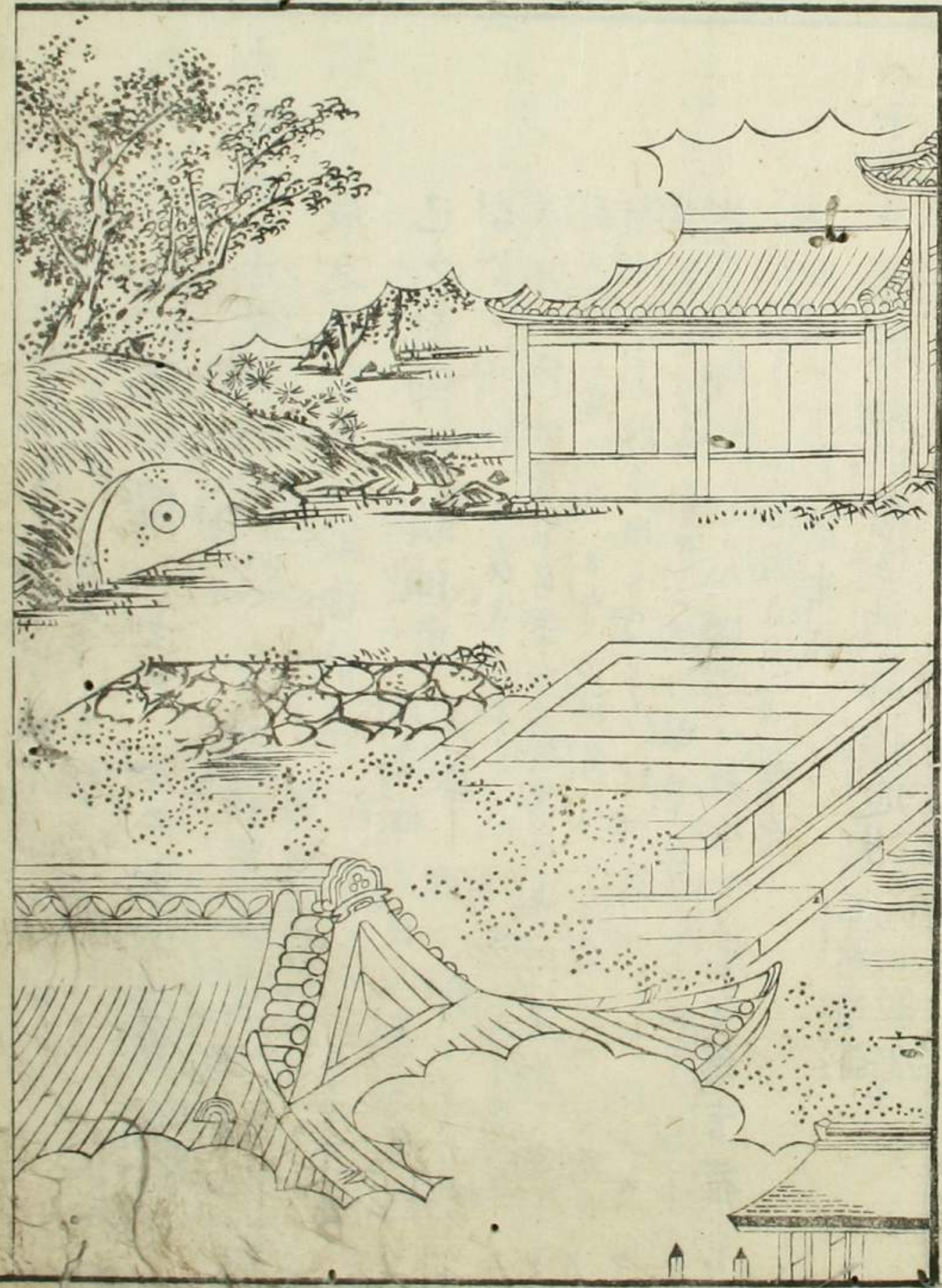
○八日

津守寺修正會

兩官氏人樂所神官已下出仕

正月七日  
白馬神事





講の講師高座に登り三臺波 嘸散花  
講経 下高座 三臺急サと終て各退出

○九日 正印殿習禮 ○十日 津守寺修正會 八日の式と  
同事

○十日 手釘始 辰の尅一の 午尅評定始 正印殿 今朝  
辰之上尅正印殿御修法 神宮寺社僧 ○十三日

己之尅御結鎮神事 兩官神官氏人等上客殿  
着座一酒一獻とすむ而して

若宮の御前より立次第一の神殿に參り常殿の  
着座の御供等も奉り御講の導師講終て各上客  
殿に退き座に神宮寺の社僧同く着座に政所目代  
射手成よ射手出て弓とく此時南門の側酒係  
華鬘とり多射手酒一献華鬘一ツとあり弓十番  
終て各御前より賭弓の射手弓前と總官權官  
酒五献とすむ退出

○十五日 辰尅神供備進神拜殿廻り 五所御前  
神供備進

○十六日 辰尅四社神供備進 正所宜認詞と羨  
五所御前の神供備進  
午尅正印殿祈禱

○十八日 奥天神社奉幣神拜 ○廿三日 御連歌會

○廿六日 御連歌會 卯半尅連歌所 ○廿七日 御歌  
行 古正印殿と

二月 ○朔日 神供備進拜大神 ○二日 祈年祭齋戸後

兩官神官下客殿に着座一祝詞と 祈年祭者祈豐年  
羨一酒一献すむ畢て退く  
大祭凡祈年新嘗祭於神祇官行之見於延喜式



住吉亦修此祭禮以祈嘉穀也

○三日

早且兩官出仕奉幣拜太神

正祢宜祝詞と養一  
次殿廻り

酉之尅神館殿中鯉渡之式

○四日

早且兩官出仕拜大神成尅四社神供備進祈年

穀之祭也

兩官下客殿に着座以勘所司ハハ女等同く  
座よそ酒一献とすめ座以て南門のすま  
列ひ立權少祝案内とすま一やれいやくと神官兩官御前  
結總官庭上圓座とすきて座と權官氏人等進とし  
く扱神供と奉り正祢宜祝詞と  
養一三三四の所殿是より

○五日

早且兩官出仕拜太神

待者御前御供御酒  
壺を渡り奉り

酒之尅國祭

兩官以下着座昨夜のどし酒一献終て  
後在廳社氣神馬四疋と進且幣と  
とつて祝詞とすま此同神馬と引廻り事四度  
次第よ三三四の卒殿一の殿入おや一

○六日

早且唐煎

兩官上の御厨に着座拜騰酒三献終て  
出仕大神と拜一南門より退こ出づ但  
奉龍二日の夜より今曉より唐煎し神殿備  
奉り供物よりと前和して拜掌一侍と唐煎し稱

○十日

於連歌所御會

○十八日 古正印殿御歌會

○廿日

大乘會定之神事

午尅兩官氏人大海社司神官  
勘定司神寶所等上客殿着  
座酒一献の後樂所後王納曾利を養一酒二献と  
す各退出樂所の着座ハ三月會の殿上なり

○廿三日

古正印殿御連歌 ○廿五日 二季御連歌

○廿七日

古正印殿御歌會

三月

○朔日

早且兩官出仕拜大神

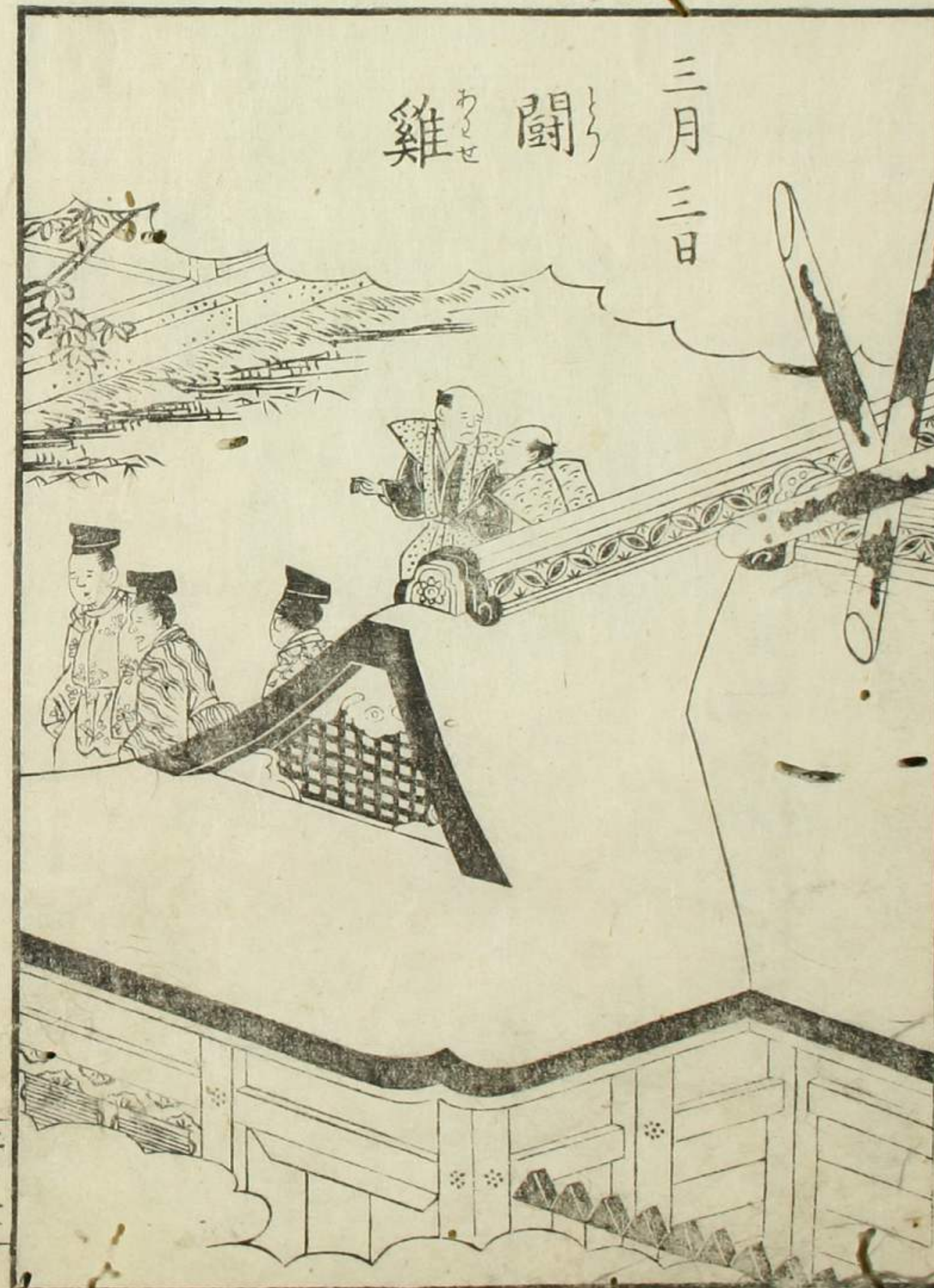
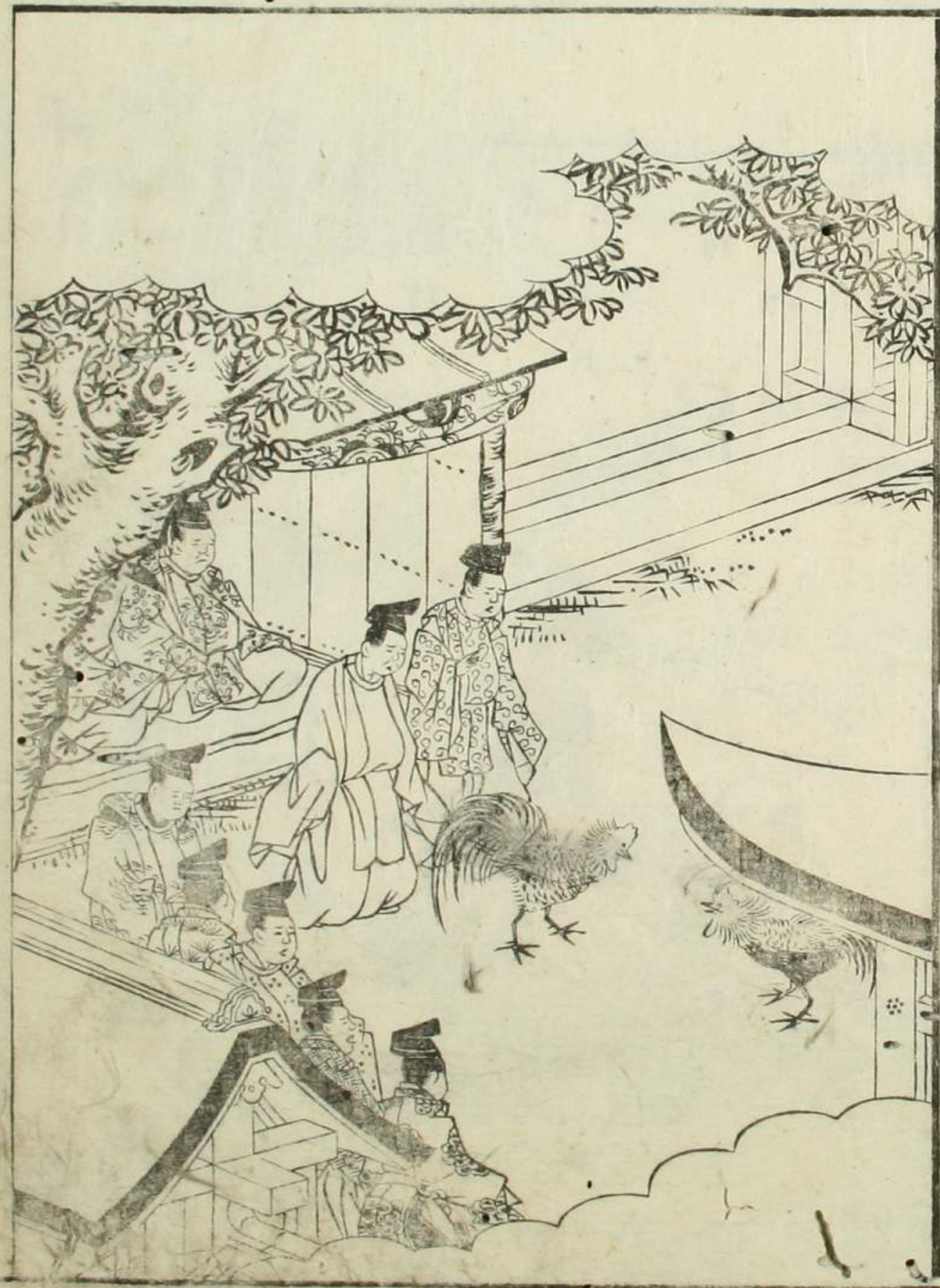
正祢宜祝詞と養一  
殿廻り終て退出

○二日

早且同昨日

○三日

辰尅神供備進





兩宮の神官樂所南門より一扉前より舞臺に  
正稱宜祝詞と奏して各五所の前より舞臺に  
廊下繩道を敷て座に樂所座上の後屋に着座し  
中門の廊下小庭より座に其後圖雜十番神所司  
の舞あり後王納蘇利と奏し  
其後殿廻りて終る

○七日 戌尅大乘會試樂

住江殿にて執行し兩宮系入  
官西の妻戸の際に座に權官南の高欄の際に座に各  
小女置一帖と敷く萬歳樂延喜樂後王納蘇利と奏  
舞樂習練する義なり

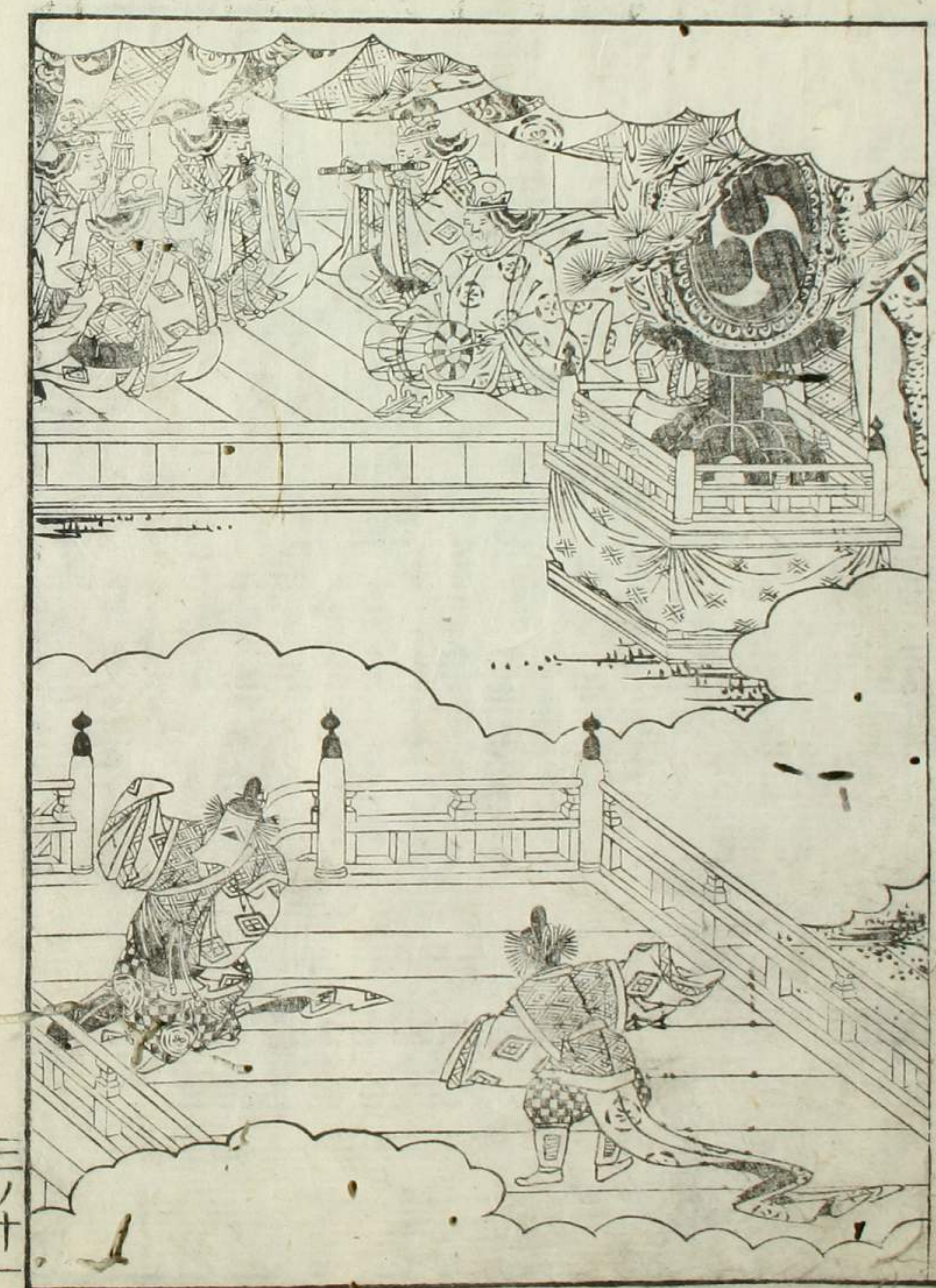
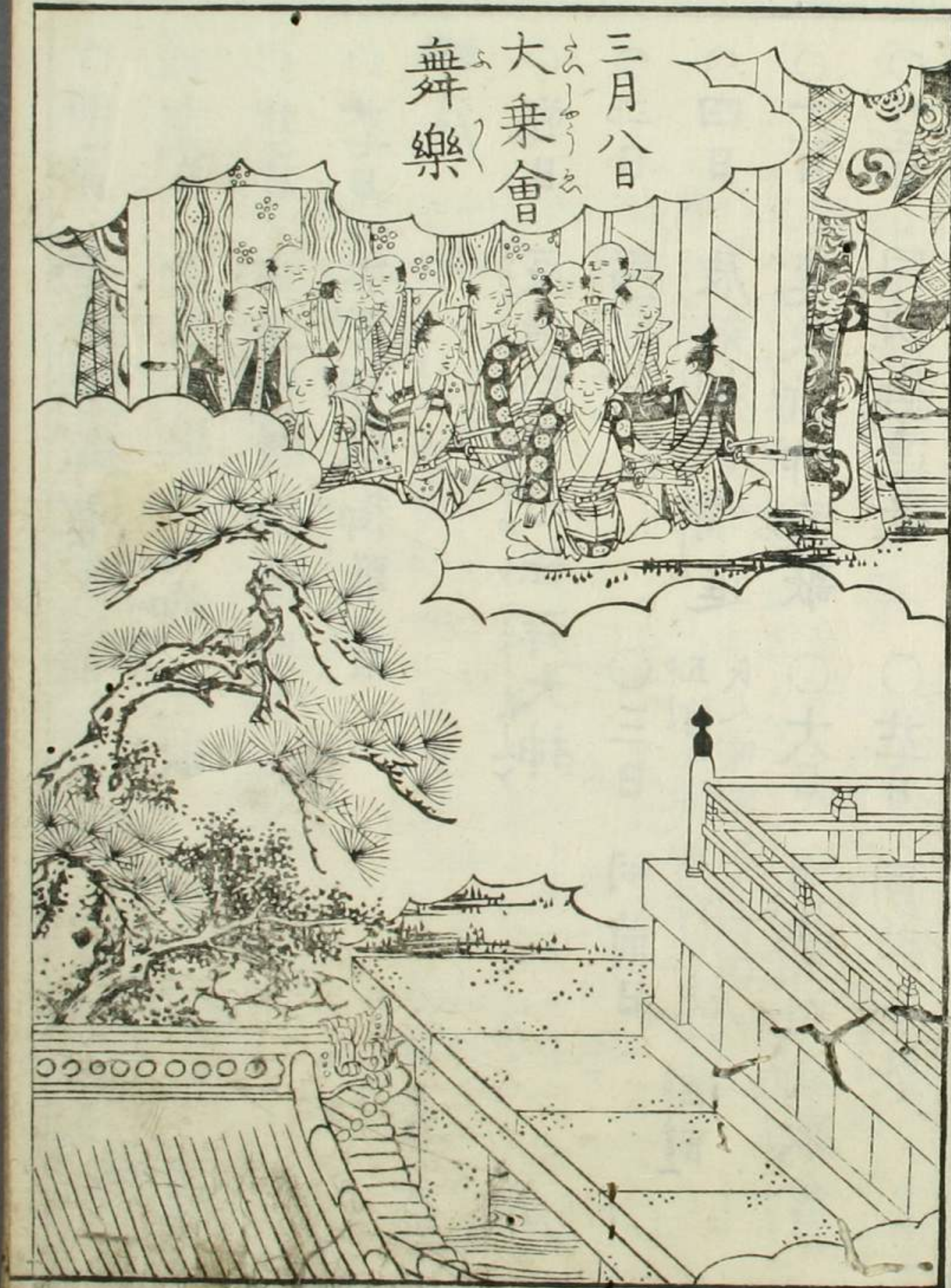
○八日 大乘會

寅尅中門より舞臺に  
寶と出奉り左右の中門より舞臺に  
直奉り兩宮以下住江殿にて象束と音高振の上  
胡床とまゝ正稱宜再拜神人警蹕樂所亂聲

○九日 小乘會

神宮寺と執行し舞臺にて  
御經并舞樂兩宮以下出座

止り春庭樂と奏し神幸北の中門より舞臺に  
東ふれ南門より舞臺と徑て南の四足門より舞臺に  
頓宮の大床の上より舞臺と安置し總官宣命と讀み舞臺に  
司助所司の氏屋に着座し其後社僧會式と兩宮  
進む次巫女舞臺より上り供養と供舞り終て左  
右の樂所亂聲と發し振鉦次曹利古次傳供次  
上り總次唄師舞臺より上り散花行道波河鳥次  
萬歳樂延喜樂地久樂次入調舞也此間殿上  
饗膳獻酒と進み舞臺に神樂還御還城樂と奏し  
元龜の比當社の神領却畧を伶人を散亡して  
久講りてかち斗と舞臺に天王寺より伶人  
去り慶長十九年断絶し其後寛保二年壬戌  
舞臺執行する



○十日 連歌所御連歌會  
 ○十八日 古正印殿八句御連歌  
 ○廿三日 古正印殿御連歌  
 ○廿七日 古正印殿御歌會

四月

○朔日 辰尅兩官出仕拜大神  
 ○二日 同前日  
 ○四日 辰尅神供備進  
 ○十日 連歌所御連歌  
 ○廿日 同所御連歌  
 ○廿三日 同前日  
 ○廿六日 古正印殿御歌會  
 ○廿七日 同所御歌

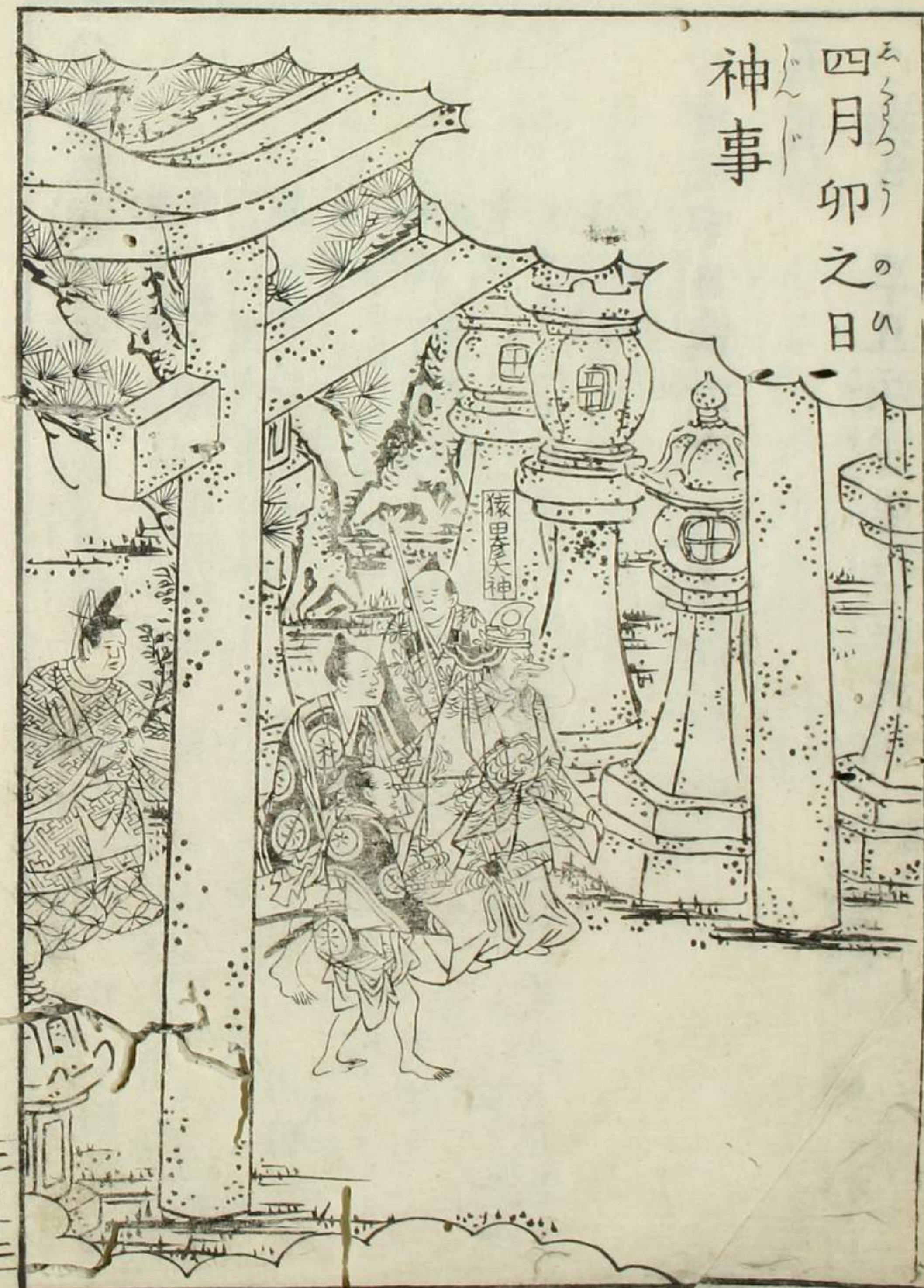
○上之卯日午尅卯日祭

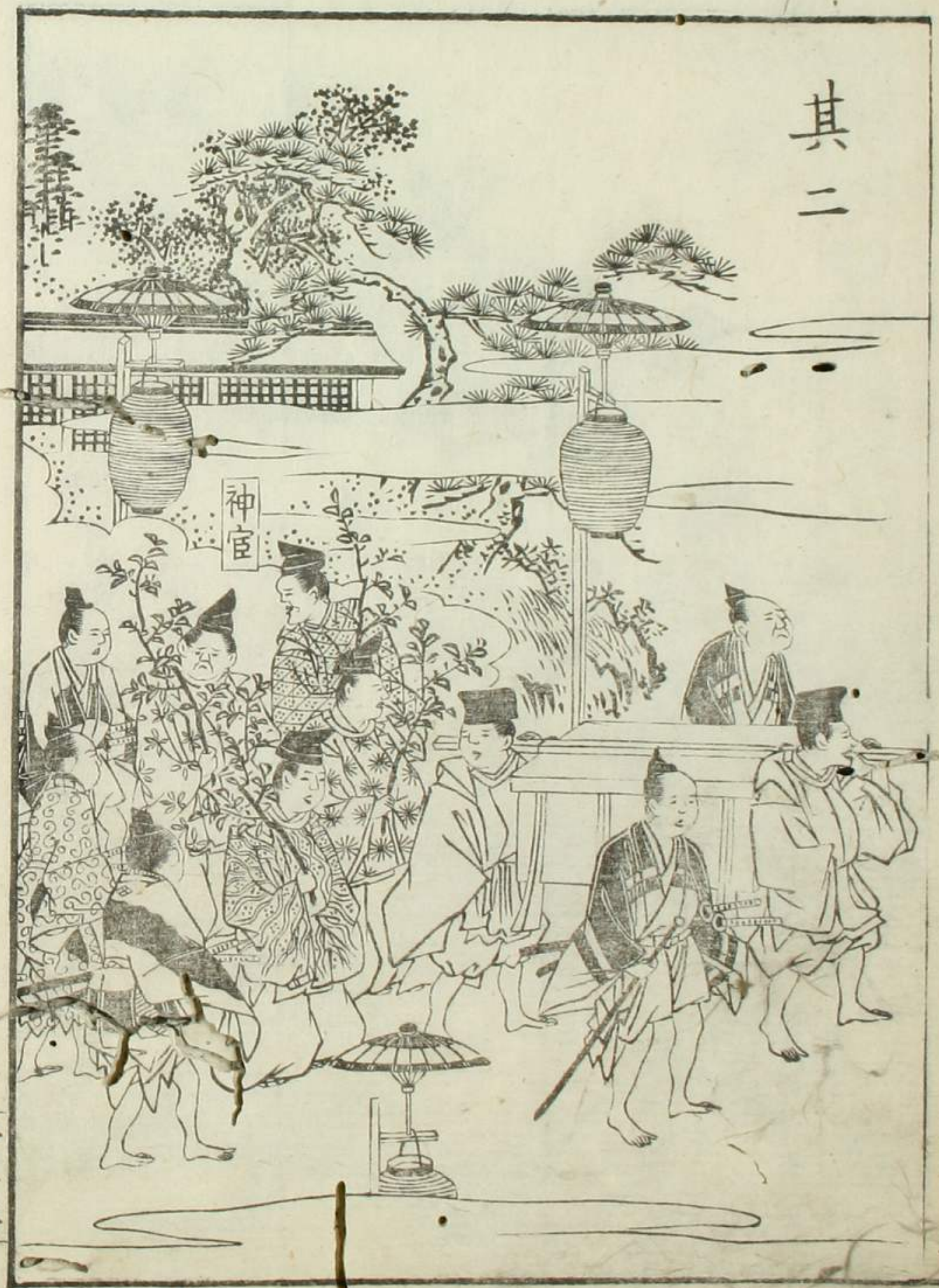
幣取て拜す事四度終て神人亦權少  
 祝度權少祝正祢宜授く正祢宜祝を差す  
 權少祝神馬四正引廻り車三度次神寶取て奉り  
 時兩官以下退出三三四の御殿も是に同其後五所  
 御前の御供權祢宜祝詞と差し樂所亂聲を發し  
 兩官神殿へ奉り神樂一基神馬と奉り神幸行列  
 北の中門と出西の門より猪の鼻に到り東へ行三月會の  
 中門に入り舞臺と経て南門より御前へ入れ奉り樂所  
 音樂止し神寶取納り奉り兩官以下着座の後舞樂  
 東遊終て  
 後退出

○中之申日連歌所三木神供 申之

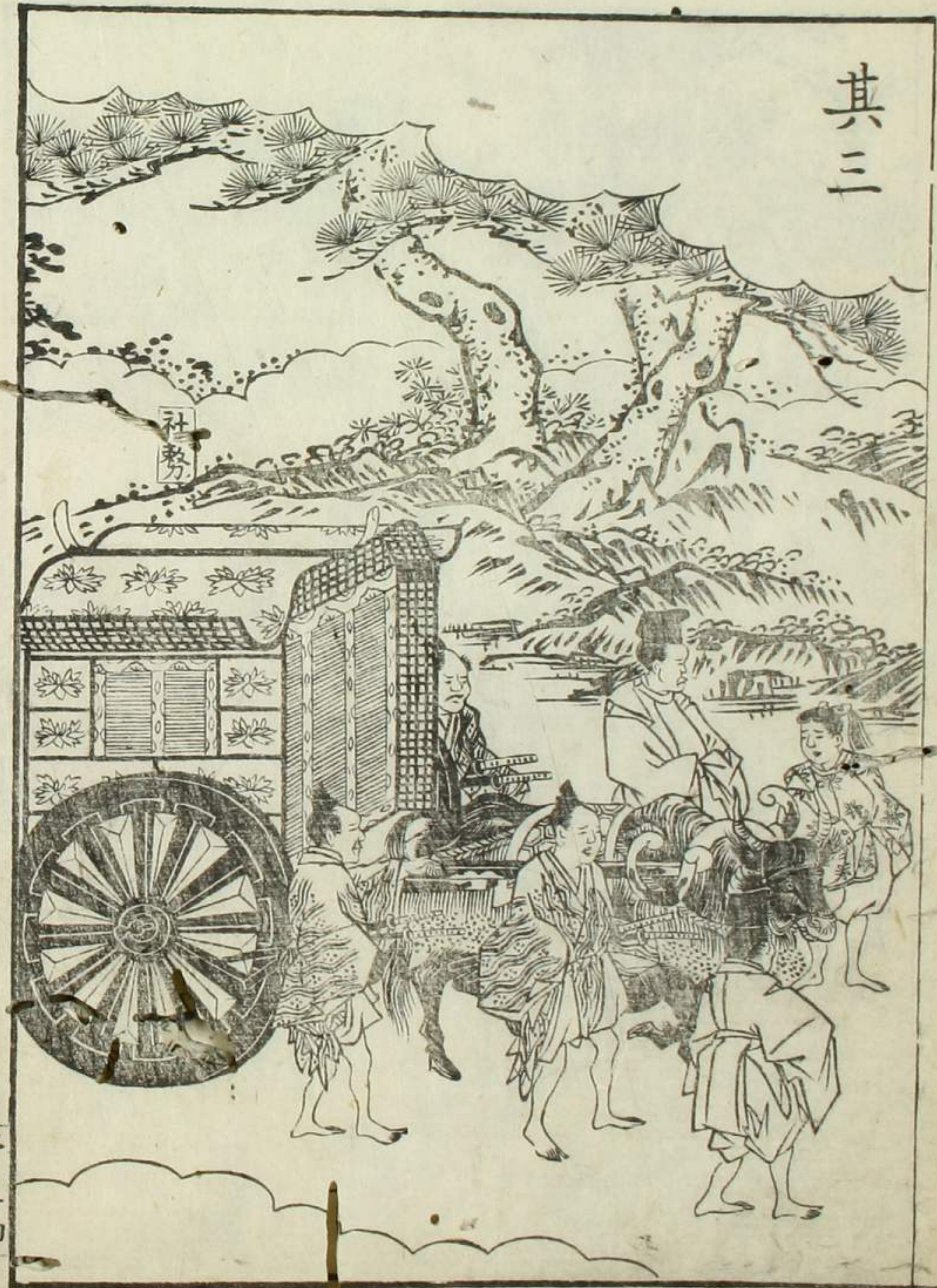
五月

○朔日 早且兩官出仕拜大神 正祢宜祝詞を差し次  
 殿より退出入









其四

此日の神事に  
卯の葉を  
て檀木の  
小枝を  
形を供  
奉に  
く柏の  
神  
思  
手  
相  
の



御供  
本  
い  
卯  
な  
神  
興





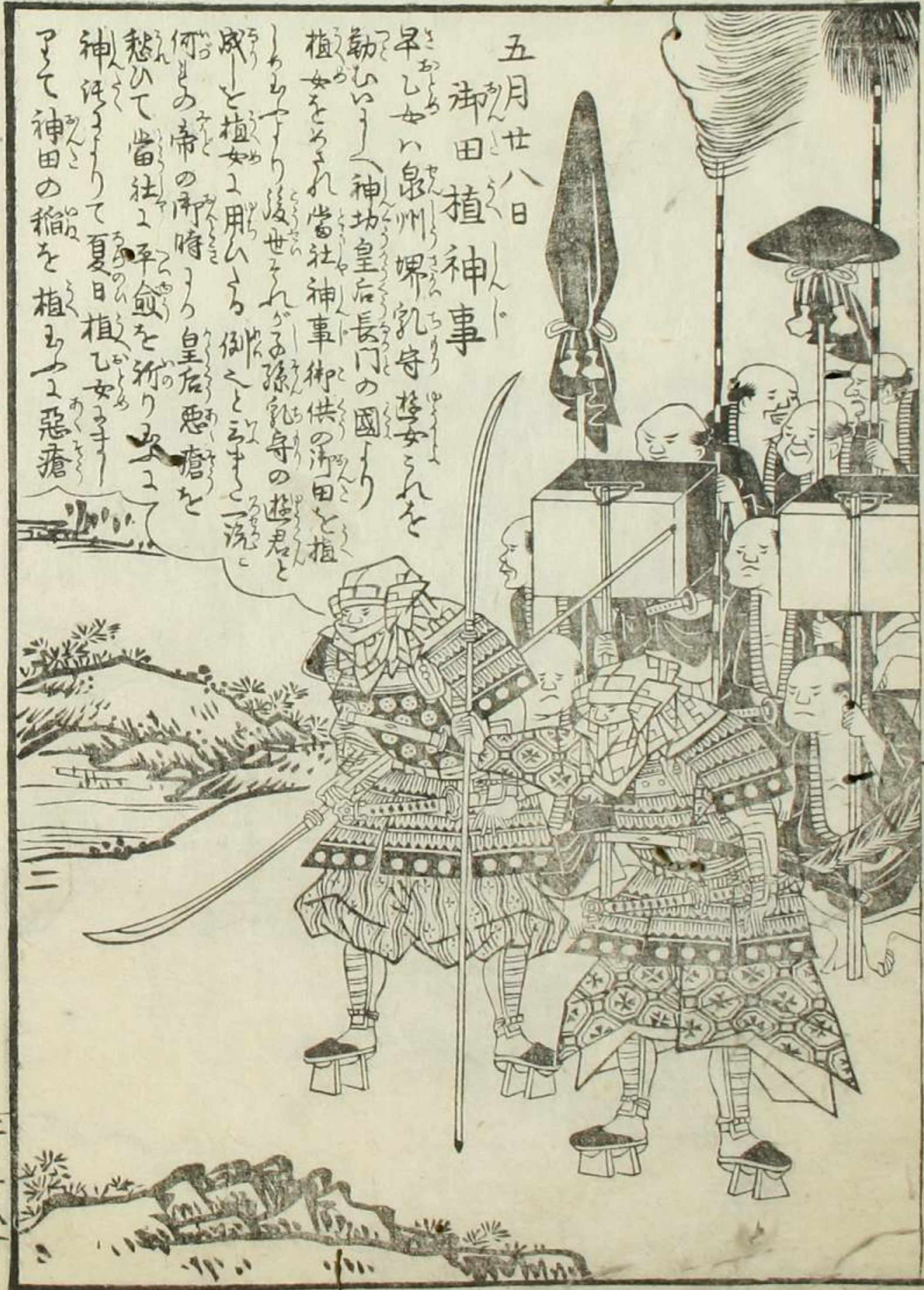
五月五日

競馬けんば



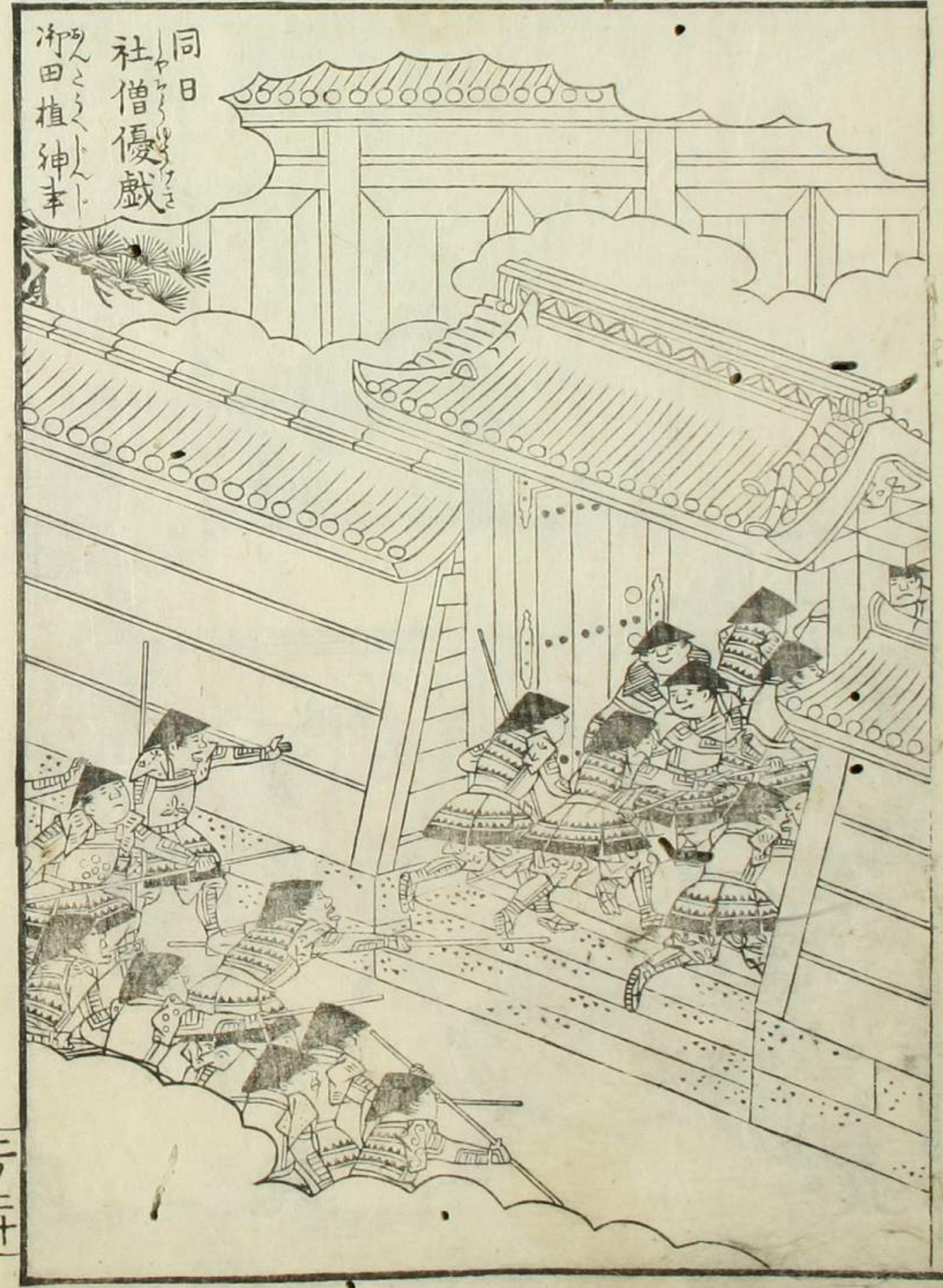


惠念より此同皇后乳守  
 の家より甲子年此里より  
 例に依て今も此里より  
 植女とお侍りも  
 いりまれば日記  
 もみれば俗流信  
 するにたはれ  
 植女の神領の  
 百姓よりか  
 て乳守の遊女  
 とかきりかき  
 らんいつのひり  
 の々のとく成  
 ありし也  
 予に



五月廿八日  
 御田植神事  
 早し女い泉州堺乳守遊女を  
 勅いりし神功皇后長門の國より  
 植女をさるる當社神事御供の御田を植  
 ちりし後世に承るる源乳守の遊女と  
 成と植女を用ひしは例とす  
 何れ帝の所降より皇后悪意を  
 愁ひて當社に平愈を祈りて  
 神降よりて夏日植ひ女  
 きて神田の稻を植りて惡瘡





○十二日 同前

○十八日 同前

○廿三日 同前

○廿七日 同前

○晦日 荒和大祓

早且兩官社太幣殿上着座以神官四人神座

正称宜祝詞と奏し神寶を出し奉り三三四の御供も右の  
同し次に五所の御供備奉りて各退出し兩官住江殿  
として束帯を着已越以下の官を引て下客殿の庭に  
着座正称宜北よむて祝詞と奏し次に酒一獻とす  
心次に各奉社に奉る樂所亂聲を奏し神樂一基神  
馬を寄奉り出御の時慶雲樂隊奏北の門より出て  
猪の鼻と南へ曾利橋と渡り西の大鳥井より出つ爰にて  
各馬に乗る泉州堀の宿院へ供奉に假し音樂の大  
鳥井のわたりとして止む宿院より總官奉幣宜命總  
連々踏と舞ふ次に舞樂つて還御平橋より各下馬橋  
の北よむて被り終て後西の門より入御三三四の御殿  
のありと過て南中門より社よりやせ御神寶等  
と納め奉り次に酒三獻  
終て各退出

七月

○朔日 早且兩官出仕拜大神 正称宜祝詞と奏し  
殿廻り終て退出

○二日 同前 ○三日 同前

○七日 神寶蟲拂 庭の越兩官氏人神官南門前  
廻り終て奉殿の幣殿上着座以内東の神寶と取出

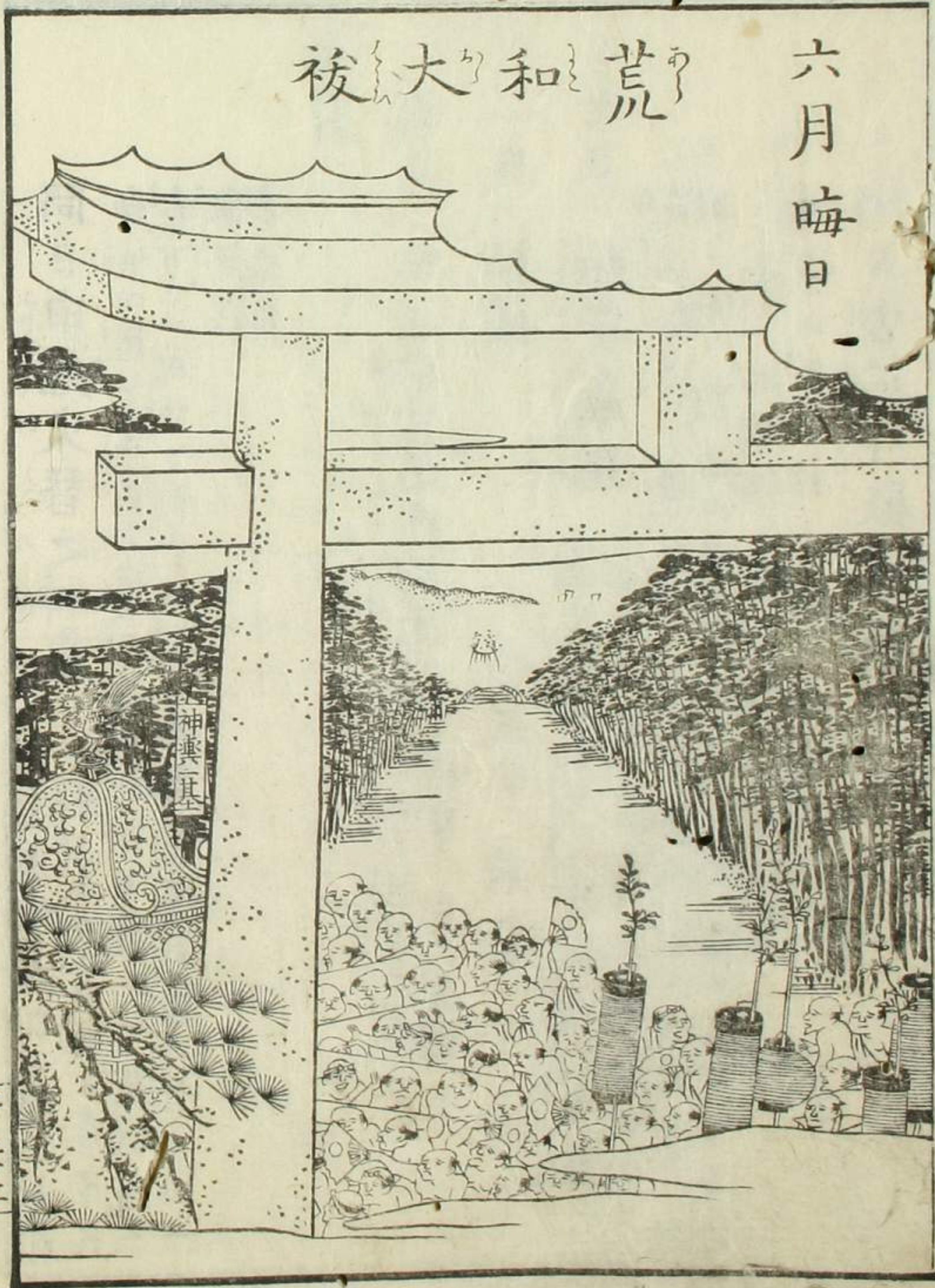
同日古正印殿御歌  
神寶の笈と封し終て各退出  
祝詞を奏し退き出て五所の御供  
廻り終て奉殿の幣殿上着座以内東の神寶と取出  
神寶の笈と封し終て各退出

同日申越火替之神事 兩官出仕高机二脚と御前  
御供四膳と高机に備正称宜祝詞と奏し後則備  
奉り神供と兩官の前へ居神官等拜膳に次に酒一  
各退出



六月晦日

荒和の大袂



三ノ十二

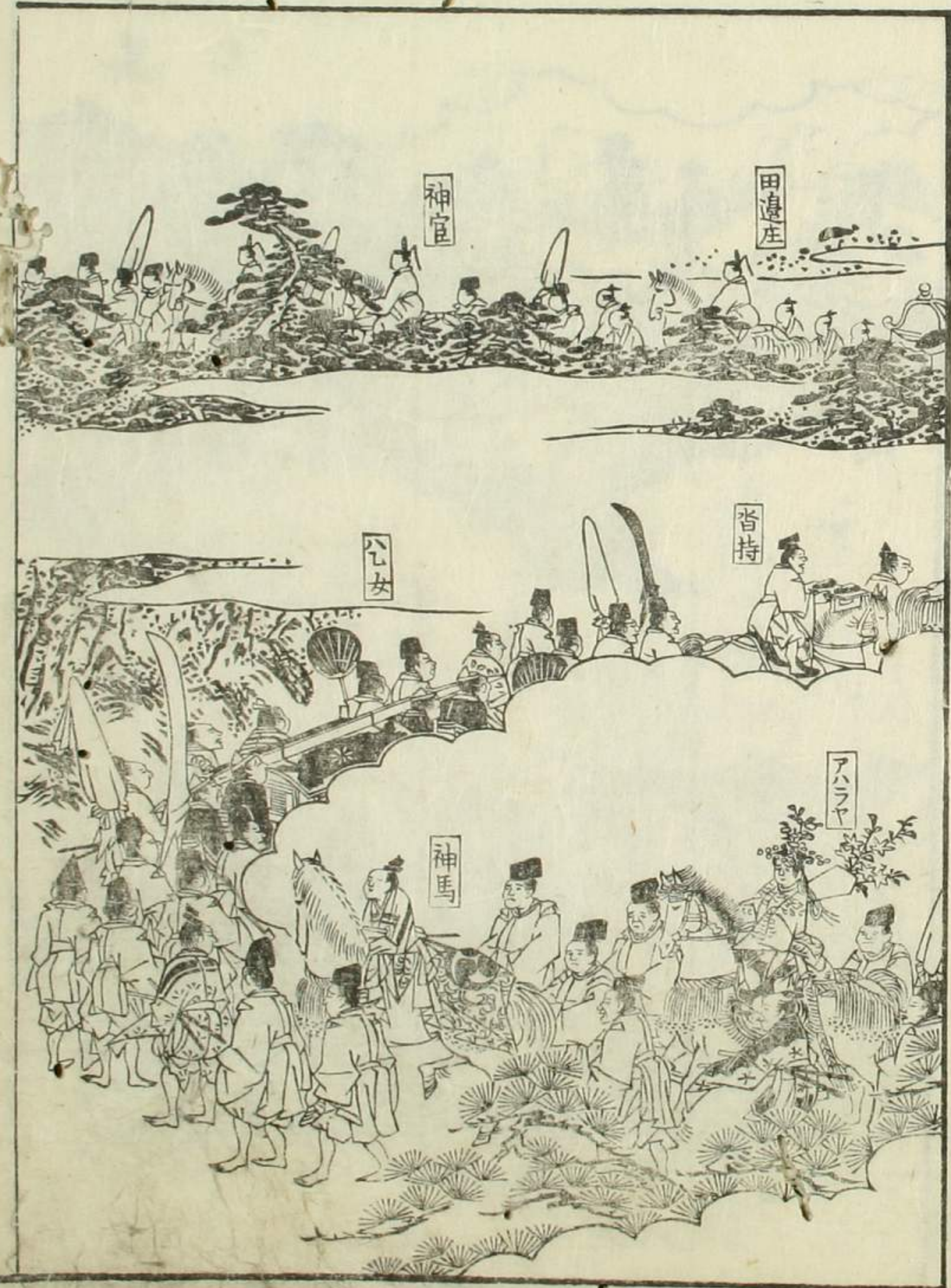
氷無月の  
御祓任  
大祭禮  
攝泉河内

紀の國淡路播磨の  
遠く國々より  
羣船大坂堺の津  
奉りて神幸に拜  
代を立て神馬の  
儀伯おもひぬ  
大坂堺の町より  
旗のりぬき盡す



楽所

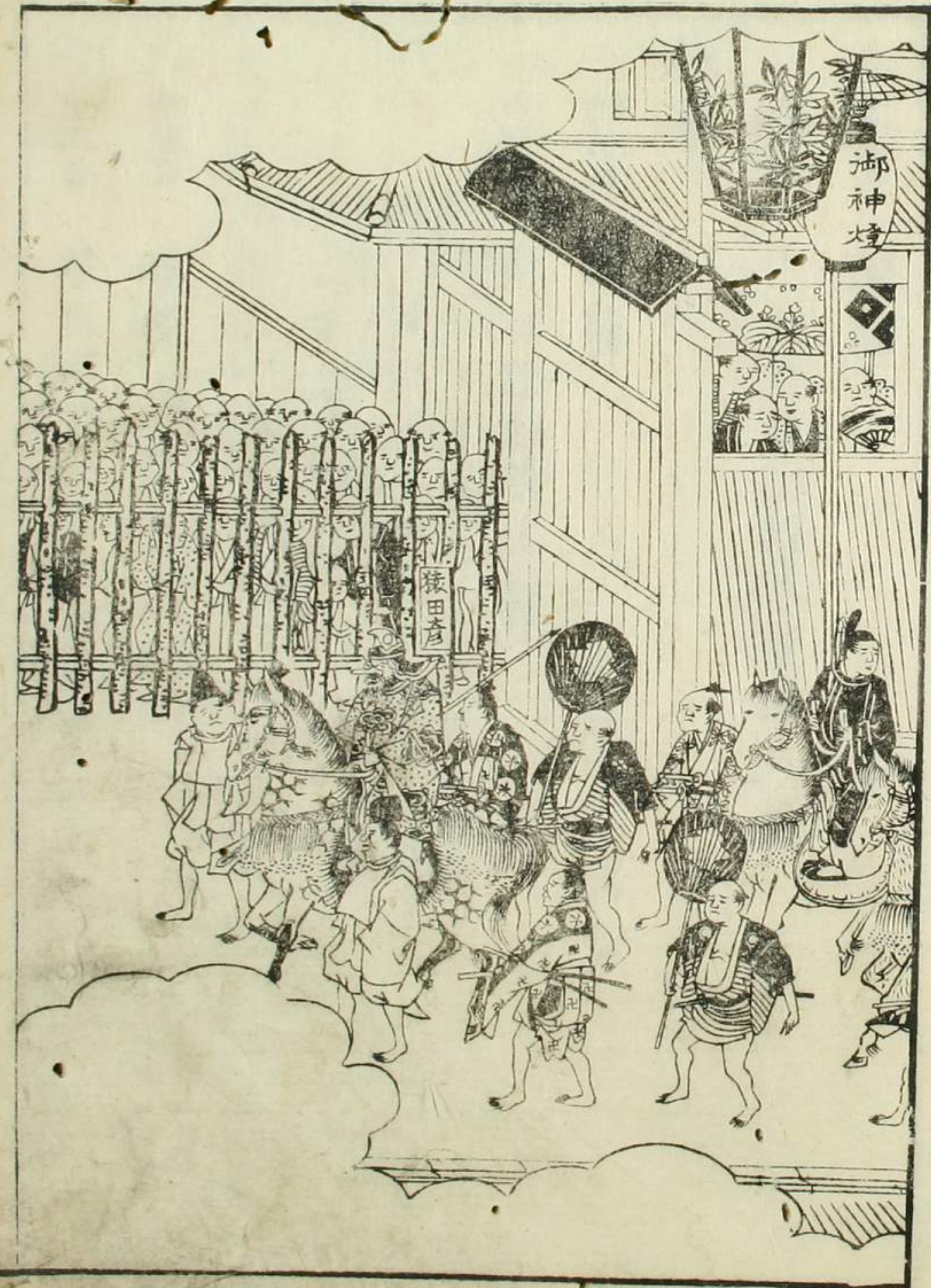
加美長



其二

俄<sup>ニ</sup>流<sup>ル</sup>り<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ず  
 号<sup>ス</sup>て<sup>或</sup>と<sup>り</sup>り  
 十<sup>二</sup>の<sup>日</sup>に<sup>た</sup>り<sup>し</sup>て  
 さ<sup>ぬ</sup>に<sup>お</sup>立<sup>て</sup>  
 神<sup>宮</sup>に  
 い<sup>は</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>  
 九<sup>州</sup>の<sup>堺</sup>  
 宿<sup>院</sup>に  
 安<sup>立</sup>の<sup>家</sup>  
 天<sup>下</sup>の<sup>道</sup>  
 三<sup>里</sup>の<sup>行</sup>  
 社<sup>の</sup>  
 誰<sup>も</sup>  
 所<sup>に</sup>





其四

○十二日 早旦两官以下出仕奉幣拜大神 正祿宜祀詞

○十五 孟蘭盆會 厨の尅两官以下一奉社幣殿着座に御供四前備奉正祿宜祀詞を差し

終て五所の神供例の備殿廻り終て南門より住江殿入る午の尅孟蘭盆會神人案内とやれ兩官以下南門より奉殿入る樂所亂聲を發れ大海法司氏人等左右の廊は着座に讀讀師高座より上り行道講終て樂所散手貴徳を差し相撲十番勝負の舞後頭納獲利長慶子を差して退出

○十八日 两官出仕拜大神

○廿三日 同前 ○廿七日 同前

八月

○朔日 早旦两官出仕奉幣拜大神

○二日 同前 ○三日 同前

○八日 花摘御供 辰尅四社の御供

○九日 己尅若松社神御供 ○十日 己尅奥天神御供

○十二日 两官出仕拜大神 ○十五 古正印殿御歌

○十六日 两官出仕拜大神

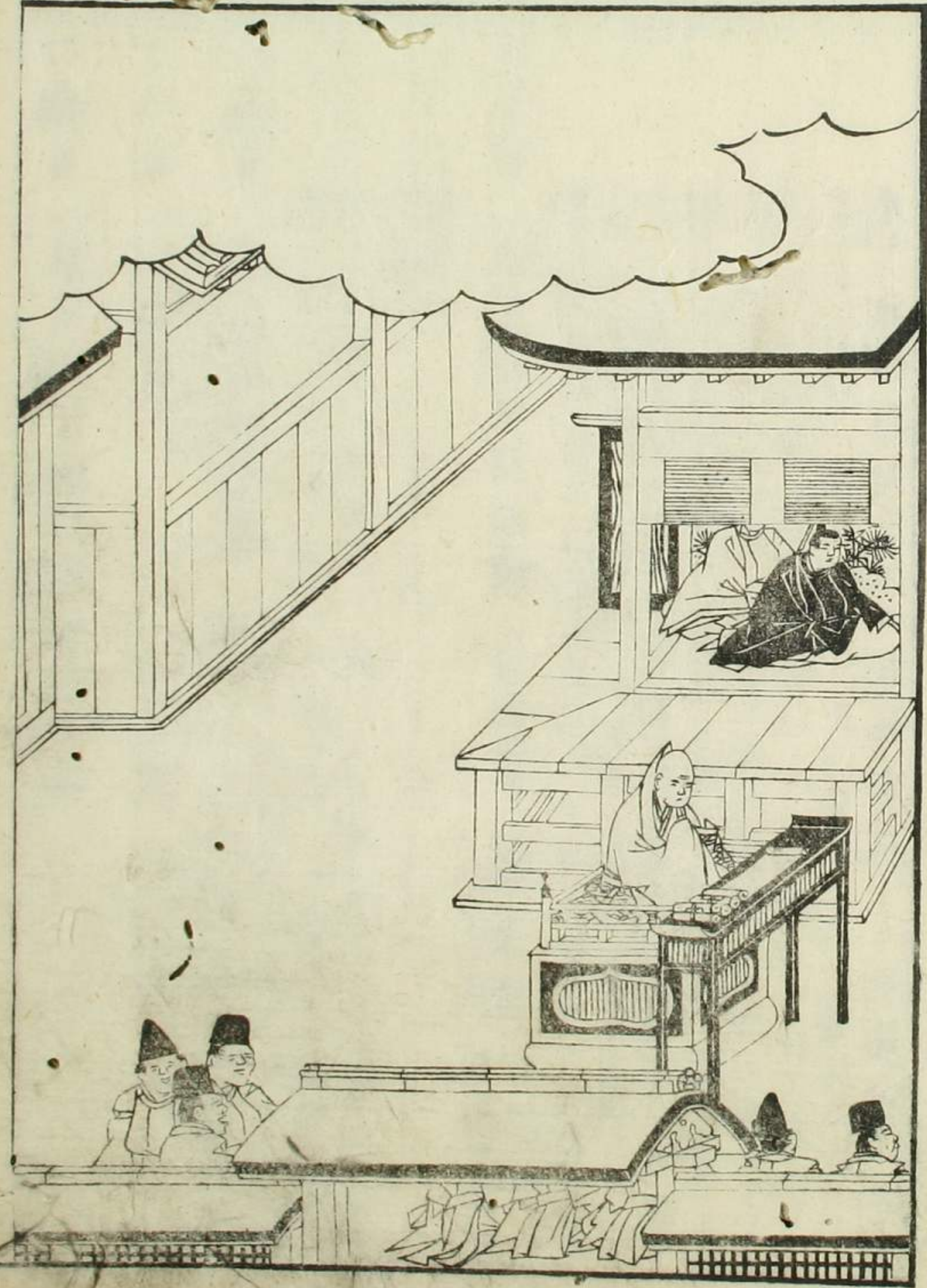
○廿日 相撲會定之神事於上客殿行之 午の刻兩官以下大海法司氏

入樂所亂聲を發れ大海法司神事の定文と兩官より呈し兩官判を加終て饗膳酒一献の間樂所長慶王納獲利と相撲會齋

○廿三日 两官出仕拜大神 ○廿五日 二季連歌同二月

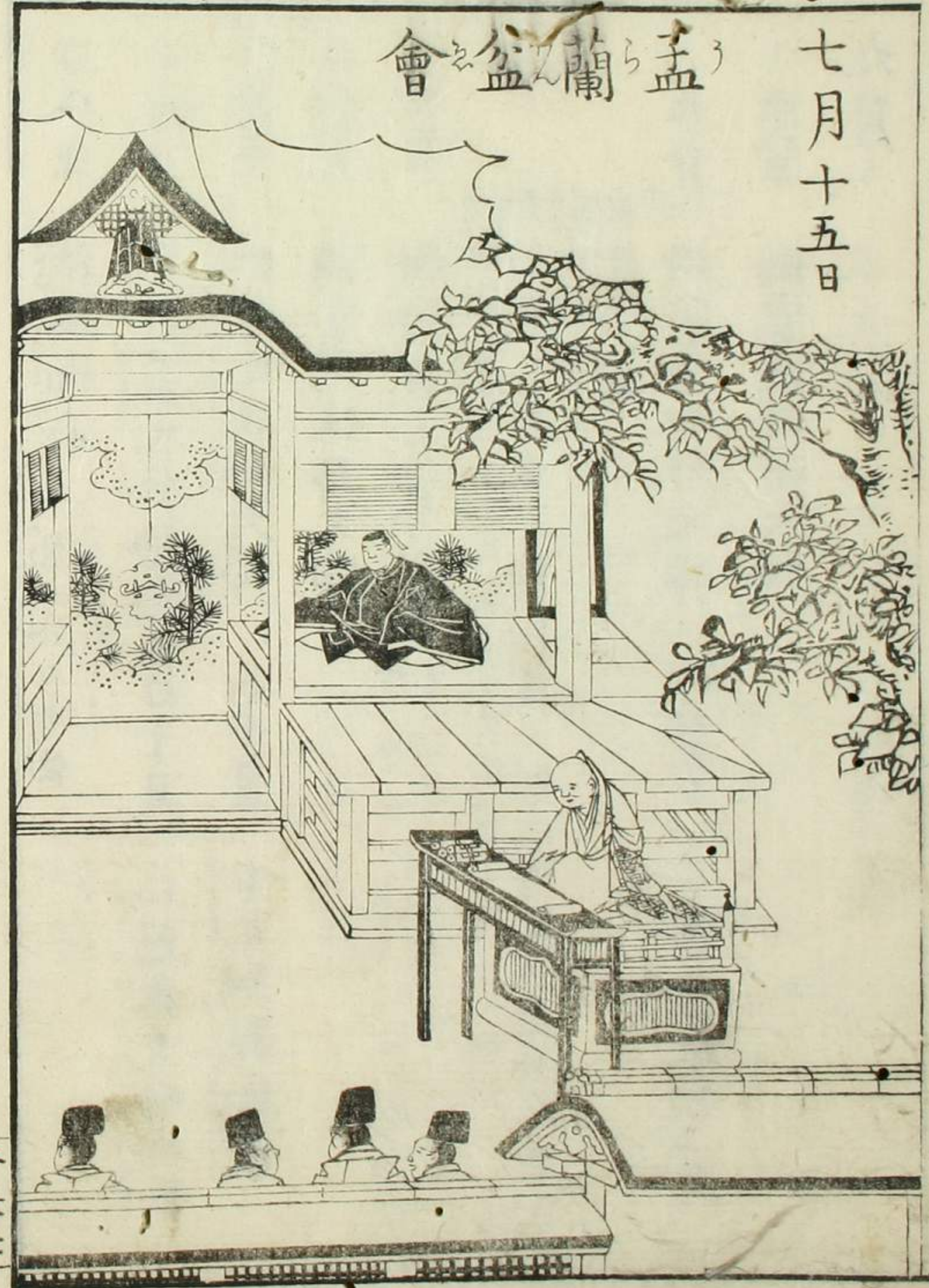
○廿八日 两官出仕拜大神

九月



盃盆蘭盃會

七月十五日



二ノ二十七

○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神

○二日 同前日 ○三日 同前日

○九日 辰尅神供備進 兩官以下樂所出仕例の... 神供奉

○十二日 兩官出仕拜大神 ○十三日 相撲會 寅上尅宿院

發一陵王納蘇利... 兩官以下神樂供奉の人... 奉り神樂神馬を下... 宿院へ座一奉り

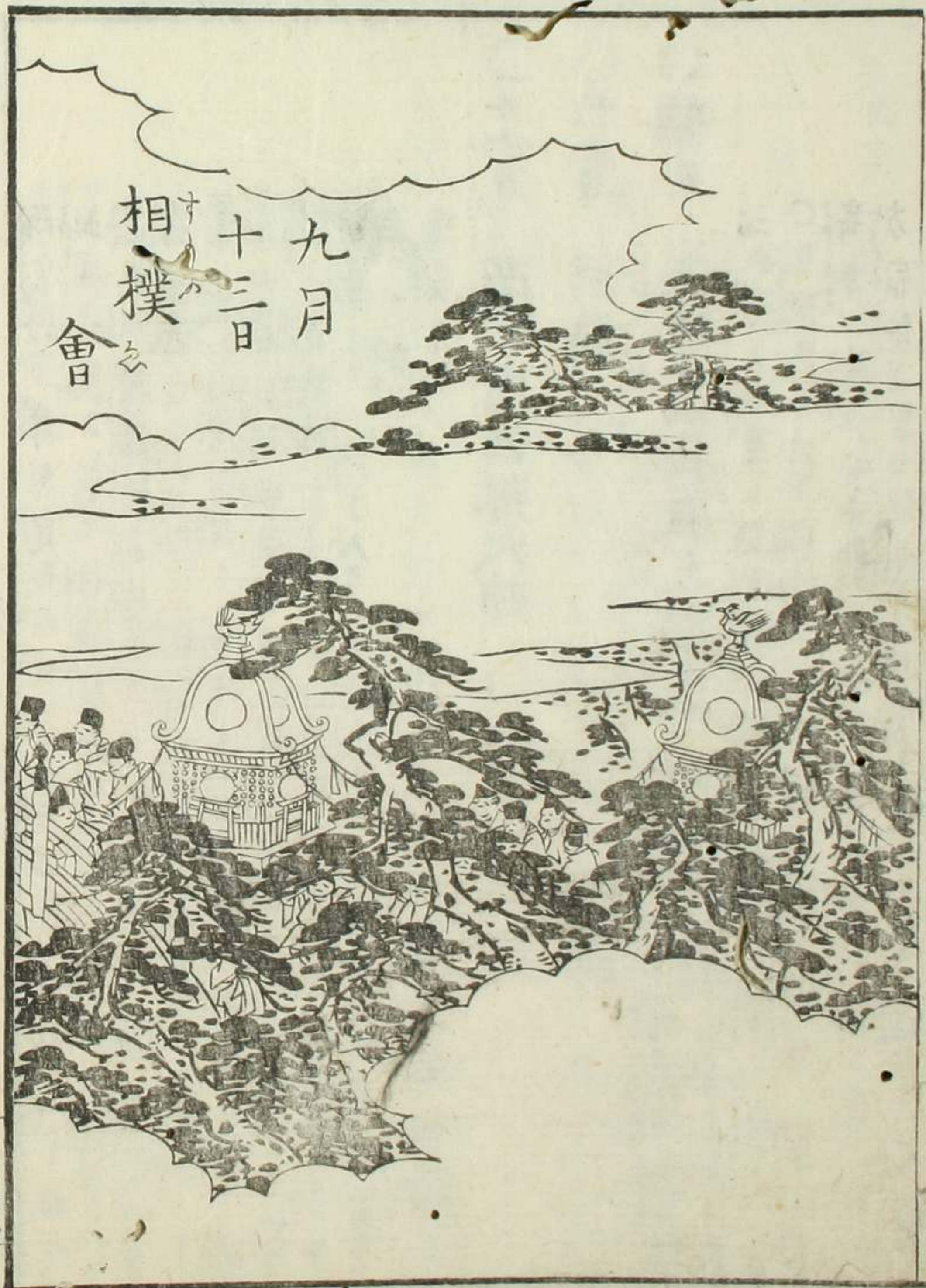
兩官以下席を定む... 此同宿院... 行車... 事繁... 故... 悉... 酒... 相撲... 三番... 終... 勝... 負... 還... 城... 樂... 奉... 猪... 鼻... 西... 門... 入... 南... 中... 門... 入... 奉... 神... 靈... 神... 寶... 退... 出... 各... 同日戌尅本殿庭御神樂

○十六日 兩官出仕拜大神 ○十六日 同前

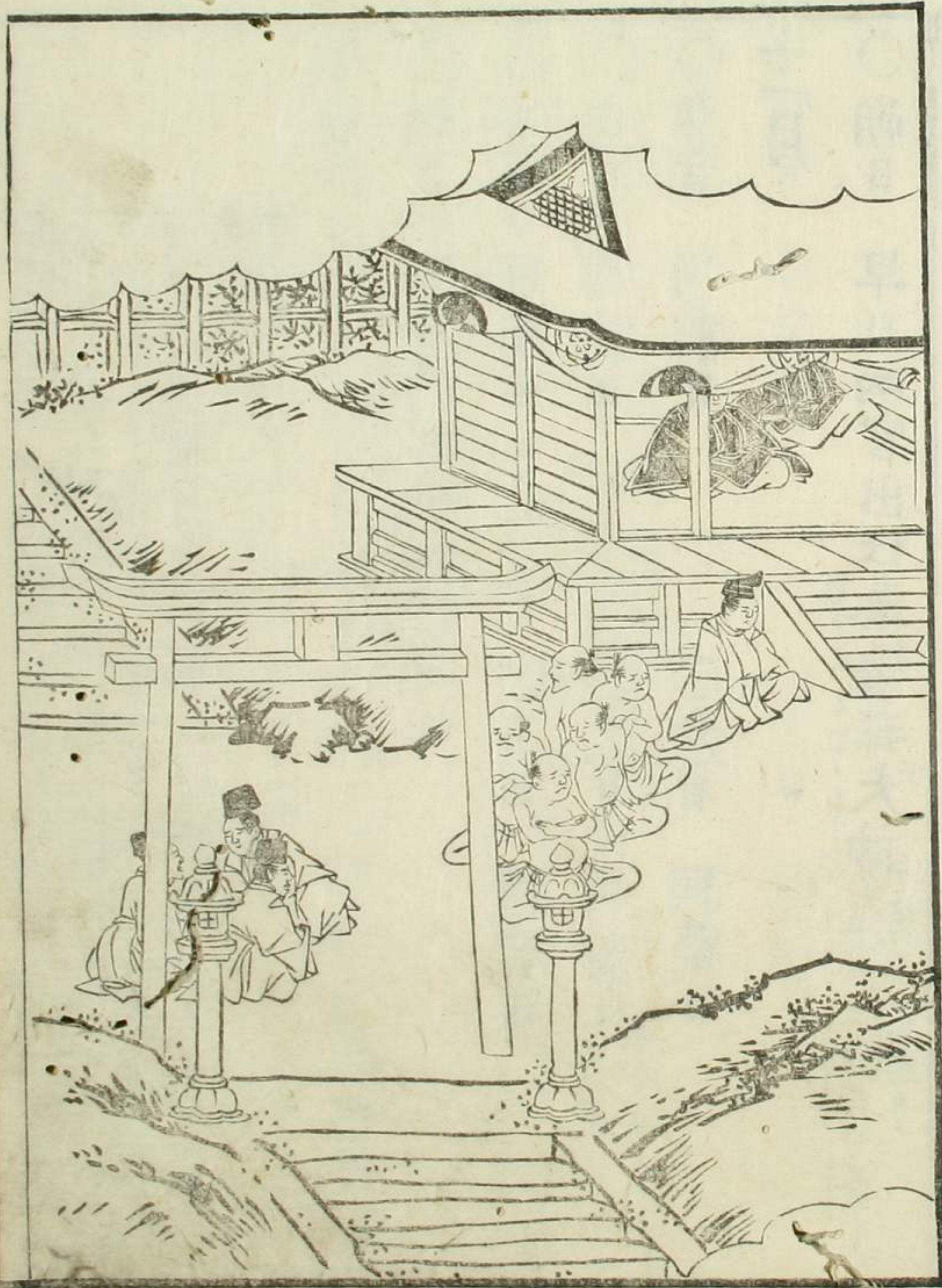
○廿三日 同前 ○廿六日 同前

○晦日 玉出島御祓之神事 辰尅四社御供備進兩官以下

北の廊... 安置... 五所御供例... 下出仕神寶... 奉り南... 寄奉り... 幸北中門より西門へ出て曾利橋と渡り北の... 宿院より神樂を居奉り兩官以下廻廊へ着座







撤少御齋と賦、神官祓を上げ、祀祠をやり、終て着座、酒  
 一献次、連々、踏終て舞、樂、伎、伎、胡蝶、や、て、還、御、行、例  
 十人の、三、神、殿、の、小、門、の、前、て、く、く、く、く、て、西、の、門、り  
 入て、三、の、御、殿、の、わ、り、を、過て、南、門、より、神、寶、を、納、り、  
 奉、り、各、退、出、り、

十月

○朔日 早旦兩官出仕拜大神

○二日 同前日 ○三日 同前日

○七日 同前日 ○六日 同前日

○廿三日 同前日 ○廿日 同前日

十一月

○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神 正祿宜祝詞を奏し、終て殿廻り

三ノ三十一

○二日 同前日 ○三日 同前日

○十日 同前日 ○六日 同前日

○廿三日 同前日 ○廿日 同前日

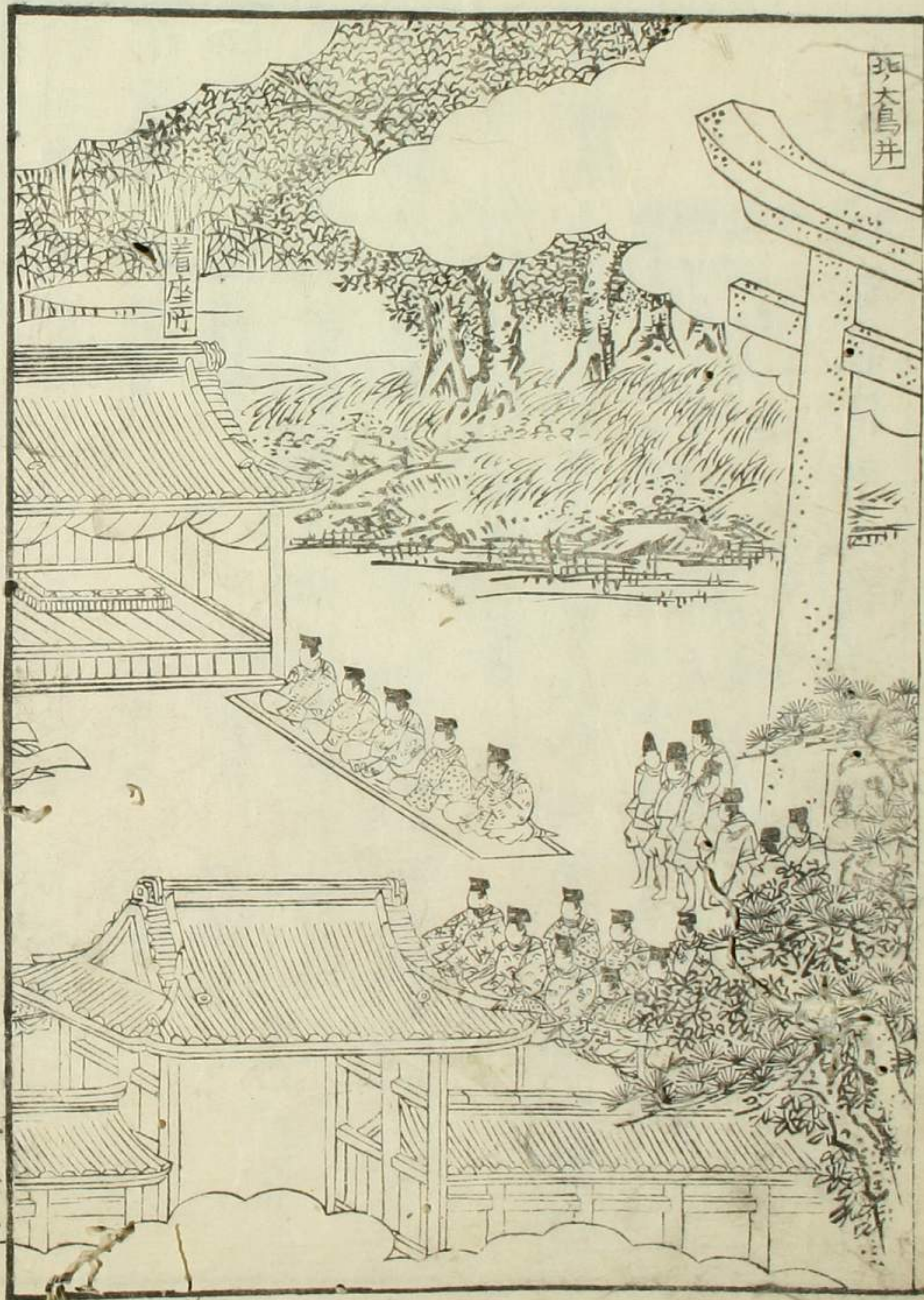
○丑之日 相嘗祭齋戸祓於神館殿行之 兩官今嘗り、祭龍

○寅之日 早旦兩官社參 酉の尅當村より、饗、膳、を、り、おこ、り、備、進、の、舞、射、兩、官、を、れ、と、拜、り、

○卯之日 新嘗會早旦兩官社參成尅社祭神供備進 大海の社司定支と持、兩官以下、呈、一、献、終て、退出、

○辰之日 辰尅侍者御前御供 兩官以下、社司、巫女、等、下、客、殿、に、着、座、氏、人、手、水、を、す、ま、て、後、御、前、に、参、り、兩、官、以下、庭、上、に、圓、座、を、し、ま、て、座、に、巫、女、幣、殿、の、左、右、に、立、神、供、備、奉、り、軒、二、本、由、の、御、殿、同、一、事、終て、神、館、殿、へ、入、り、

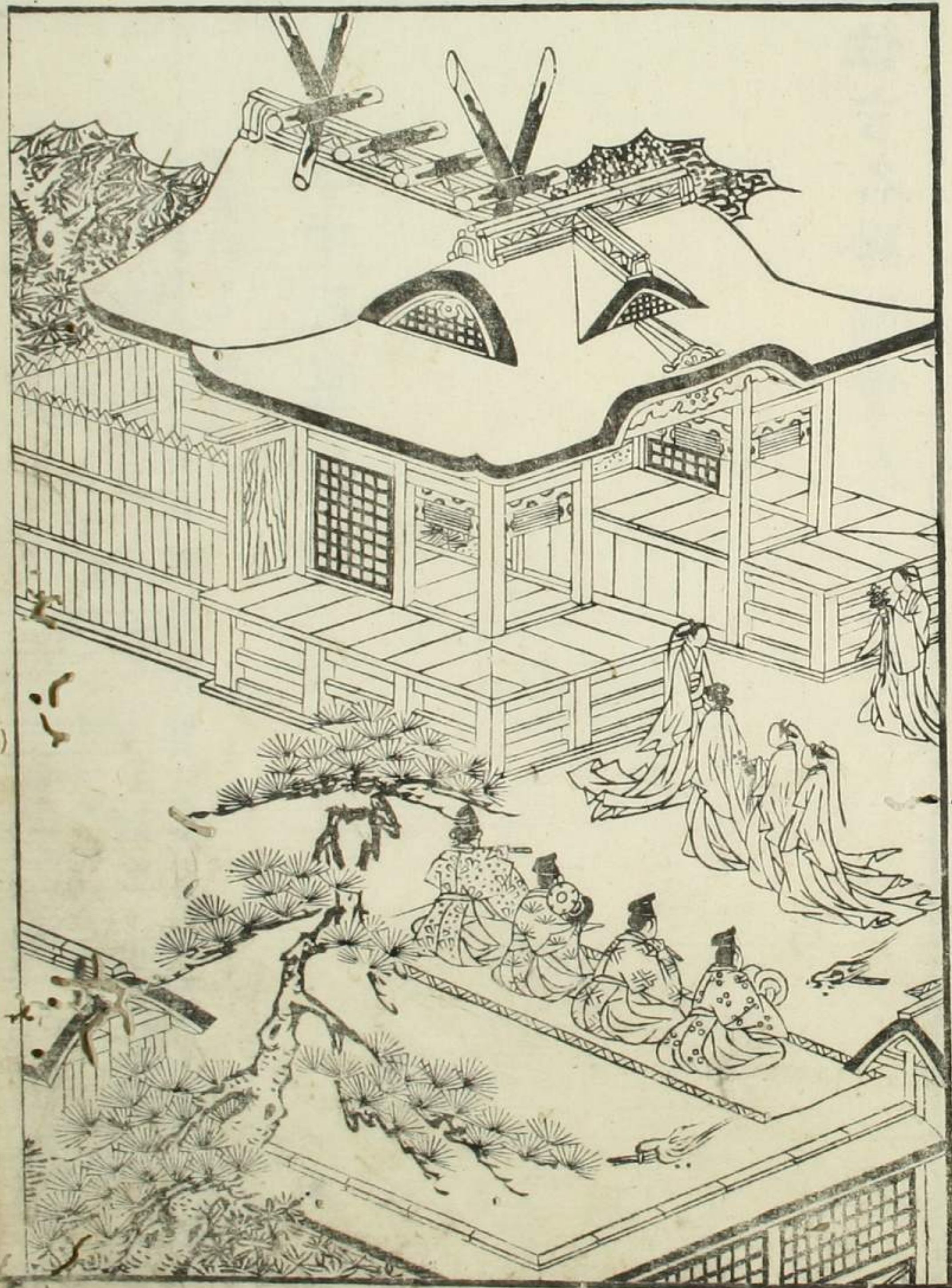
○辰之日 辰尅侍者御前御供 兩官以下、神、館、殿、に、着、座、神、供、を、備、正、祿、宜、祝、詞、を、



三十三

退出 ○酉之起國祭 着座兩官以下 殿に糸廻廊に歌曲あり和琴笛着座昨夜とある二三四の侍供終て又一の社に糸廻廊行事數多られ退し御膳を覽し退出 御膳献酒  
 戌之起里神樂 先神樂の役人本社の庭上り着座に兩官以下糸向皆庭上り着座献酒  
 ○己之日 早旦兩官社系酒の列神館殿に着座饗と居酒三献終て東遊の陪從寶藏の前より立東遊を舞ふ神樂の役着座巫女侍者壇上り着座に連々踏昨夜の列兩官上の御厨着座各兼て饗膳と居置く神館殿に北の格子に上げ御供積と下客殿より侍者御前に渡したてすける神酒と捧け正祿宜祝詞と奏し神酒を賜ひて退き出兩官四社の殿廻り終て歸館參籠今曉り  
 ○午之日 辰の列兩官上の御厨着座各兼て饗膳と居置く神館殿に北の格子に上げ御供積と下客殿より侍者御前に渡したてすける神酒と捧け正祿宜祝詞と奏し神酒を賜ひて退き出兩官四社の殿廻り終て歸館參籠今曉り  
 ○巳之日 早旦兩官社系酒の列神館殿に着座饗と居酒三献終て東遊の陪從寶藏の前より立東遊を舞ふ神樂の役着座巫女侍者壇上り着座に連々踏昨夜の列兩官上の御厨着座各兼て饗膳と居置く神館殿に北の格子に上げ御供積と下客殿より侍者御前に渡したてすける神酒と捧け正祿宜祝詞と奏し神酒を賜ひて退き出兩官四社の殿廻り終て歸館參籠今曉り

十二月  
 ○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神 正祿宜祝詞と奏し兩官殿廻り  
 ○二日 同前日 ○三日 同前日  
 ○八日 未の刻兩官布衣して出仕幣殿に着座社僧法事讀経終て各退出  
 ○十日 兩官出仕拜大神 ○十五日 神宮寺佛名會  
 ○十六日 兩官出仕拜大神 ○廿三日 同前日  
 ○廿六日 同前日 ○晦日 御煤拂神事  
 兩官以下大海社司出仕各庭上着座神官等神殿に糸廻廊の尾の舞とありて内障及び神寶等の煤をくはし奉り終て正祿宜祝詞と奏し二三四の御殿皆是に同し終て退出  
 ○春秋の彼岸初日より四日の同御讀経所より社僧法事八講中日放生會供入會あり



○右小祭の行事といふも、霜月新嘗會と大和國田添山の土と、又遠里小野より御燈の油を献する類の數多ありて、事繁るれに右鮮の故事古實と云ふも、、たことし後編、と云れを出に

年中行事終

住吉名勝圖會卷之二終

